



全国大会 参加報告

--- 2026 Summer ---

兵庫県サッカー協会 審判委員会



参加大会：令和8年度全国高等学校総合体育大会サッカー競技

参加期間：令和8年7月24日(金)～令和8年7月26日(日)

場 所：Jヴィレッジ、住鋤エナジーマテリアル NARAHA



1. 今年のインターハイの審判団のテーマ

「審判チームの連携によるフェアで安心・安全、そして円滑な試合運営の実現」

2. 担当試合の振り返り

(1) 令和8年7月25日(土) 12時30分キックオフ 1回戦

対戦：富山第一高等学校(富山県代表) VS 帝京大学可児高等学校(岐阜県代表)

割当：大槻 隼人 (主審、関西協会、2級)

古田 鋲 氏 (副審1、関西協会、2級)

鳥居 改惟 氏 (副審2、関東協会、2級)

池田 知広 氏 (第4審、東北協会、2級)

インストラクター：有田 靖 氏

結果：0-0(0-0、0-0、PK4-3) 勝利校：富山第一高等学校

〔試合内容〕

雨が降り、ピッチが濡れていて選手は滑る、ボールは伸びる環境でした。帝京大可児は後方からショートパスを駆使してビルドアップを試み、相手がくいついたタイミングでFWに効果的なスルーパスを通してゴールを目指しました。富山第一はサイドチェンジを駆使してサイドから守備を崩そうとする意図を感じました。雨という環境もあり、ロングボールを多用する富山第一ではなく、ショートパスで前進する帝京大可児がゲームを有利に進めていた印象です。しかし、両チームともゴール前での集中力が高く決定機を作らせていませんでした。

〔試合を振り返って〕

試合序盤から細かく丁寧に反則を判定し試合終盤に反則の少ないゲーム展開を目指して臨みました。ホールディングやボールに関係のないタックルを正しく見極め、後半反則の少ないゲーム展開にできたと思います。しかし、インストラクターの有田さんからは、「手の使い方で反則の基準がぶれていた、反則とすべき事象を見落としていた」と指摘頂きました。今回の試合では選手が大きな不満を表現することはありませんでしたが、選手のストレスにつながる可能性があったことを教えて頂きました。新しい競技規則での初めてのゲームでした。スローイン、ゴールキック、交代、負傷の時間制限が特に大きな影響があり、「忙しい、頭が追い付かない」と感じましたが、有田さんからはカウントダウンを含めて新しい競技規則の実践はスムーズであったと評価して頂きました。ゴールキック、スローインのカウントダウンで意識したことは「急ぎすぎない」ということです。スローワーが変わる事、ロングスローを投げるのもサッカーの戦術の一部と考えています。目くじらを立てすぎず「遅い、遅らせる意図がある」と判断しときにカウントダウンするようにしました。「負傷によりスタッフがフィールドに入り、1分間フィールドに戻れない」ルールの適用もありました。意識したことは、分かりやすさです。負傷者は第4審の方向に出し、ベンチ(監督)、負傷者、第4審に「1分間入れないこと、主審の合図で入れること」を伝えました。

また、第4審には1分間の計測を援助していただき、1分経てばサインをもらい主審と第4審で確認することで適用ミスをしないうち努めました。「交代の10秒制限」に関しては、退出する選手を促す、記録する、10秒カウントなど、すべきことが多いと感じました。手順としては「登録の確認、10秒カウント、記録」の流れがスムーズにできると感じました。実際のゲーム展開は早くなりましたが、主審をしていてアウトオブプレーで思考を整理していた時間がなくなりました。今後練習試合を多く経験し慣れが必要だと感じました。

(2) 令和8年7月26日(日) 12時30分キックオフ 2回戦

対戦：青森山田高等学校(青森県代表) VS 山梨学院高等学校(山梨県代表)

割当：古田 鉦 氏 (主審、関西協会、2級)

大町 悠馬 氏 (副審1、北海道協会、2級)

石原 空来 氏 (副審2、東海協会、2級)

大槻 隼人 (第4審、関西協会、2級)

インストラクター：柳澤 修 氏

結果：1-2(0-1、1-1) 勝利校：山梨学院高等学校

[試合内容]

雨が降り、ピッチが滑りやすくなっている環境でした。両チーム、FWにロングボールを当てて、裏に抜けたり、セカンドボールを拾って攻めようとする意図がありました。ゲームを支配したのは山梨学院でした。ロングボールの後のセカンドボールを拾う回数も多く、また、青森山田のプレスを剥がせる技術もありチャンスを多く作り出していました。前半2分に山梨学院が、ロングスローから先制できたのもゲームを支配できた要因だと思います。球際の攻防は激しく、多少手を使ったり、遅れたタックルも倒れずプレーしており、高校生年代のトップレベルの強度の試合でした。

[試合を振り返って]

インストラクターの柳澤さんに評価して頂いたのは、「具体的に説明できていた」ということでした。主審の5秒カウントのタイミング、副審のフラグアップの意図を具体的に説明することができたので、ベンチ、監督の納得につなげることができました。この試合で最も考えたことは、ベンチマネジメントのタイミングです。声をかけて不満を引き出してしまいそうな時は監視に留め、聞いてもらえそうな時は声をかける。ただし、山梨学院の監督がフィールドに入りそうになったときは、監視ではなく止めに入る。メリハリをつけて取り組むことができ、大きな問題なく試合運営ができたと思います。反省点は、前半の交代時に交代ボードを作り間違えてしまったことです。時間もあったので正確に作る、確認する等を行い、主審、観客が混乱しなくていいようにすべきでした。主審の古田さんは、判定基準が一貫しており、両チームの最大限の力を引き出すゲーム作りをされていたように感じます。主審の「こんなゲームにしたい」という強い思いが表れていました。私も、その強さを見習いたいと思います。

3 おわりに

今回は、研修審判員として参加させていただきありがとうございました。高校生年代のトップレベルの試合を目の前で体感し、審判員として「走る、判定する」だけでなくゲームを良くするための「強さ」も必要であることを実感しました。審判員として、高校の教員として今回の経験を今後の活動に活かしていきます。

最後に、多くのサポートをして頂きました福島県審判部、インストラクターの方々、ありがとうございました。

令和 8 年度全国高等学校総合体育大会サッカー競技大会 参加報告

兵庫県サッカー協会 2 級審判員 小林顯太

目次

1. はじめに
2. 大会概要
3. 大会テーマ
4. 事前勉強会
5. 担当試合
6. 最後に



1. はじめに

7 月 25 日から 7 月 26 日の 2 日間にわたり、福島県の J ヴィレッジにて開催された「令和 8 年度全国高等学校総合体育大会サッカー競技大会」の参加報告をいたします。本大会の参加にあたり、ご推薦いただいた皆様や日頃よりご支援いただいている関係者の皆様に、この場を借りて心より感謝申し上げます。

2. 大会概要

大 会：令和 8 年度全国高等学校総合体育大会サッカー競技大会

開催期間：2026 年 7 月 25 日（土）～2026 年 8 月 1 日（土）

会 場：福島県双葉郡檜葉町・福島県いわき市

3. 大会テーマ

審判チームの連携によるフェアで安心・安全、そして円滑な試合運営の実現

＜期待したい効果・結果＞

- ・ 4 局面の連続性（トランジション）とチーム戦術の意図を理解したレフェリング
- ・ 次のプレー（局面×球際）を見据えたポジショニングと争点把握
- ・ 予測に基づく一貫性のある判定とゲームマネジメント

4. 事前勉強会

2026 年 7 月 6 日、オンラインにて本大会の事前勉強会が開催されました。勉強会では、大会要項や大会テーマの共有に加え、コンディショニング（暑熱順化・熱中症対策）に関する説明が行われました。

また、本大会から新たに 2026-27 年のサッカー競技規則改正が適用されることもあり、改正内容についての具体的な解説がありました。

<競技規則改正の目的と主な変更点>

試合の価値を高め、魅力を増すことを目的に、試合のテンポの乱れや時間の損失に対応し、アクチュアルプレイングタイムの増加を目指す内容となっています。時間稼ぎや無駄な中断を防ぐため、主に以下の制限が設けられました。

- ・競技者の交代：制限時間 10 秒以内
- ・負傷時の対応：1 分間競技のフィールドから離れる
- ・スローイン、ゴールキック：制限時間 5 秒以内

<勉強会での学び>

今回の競技規則改正は、反則を取り締まることが目的ではなく、あくまでアクチュアルプレイングタイムの増加が目的であることを学びました。改正の適用によって予期せぬ事態も起こり得るため、エラーを防ぐには競技規則の文言を覚えるだけでなく、実際の試合でどのようなことが起こるかを想定し、現場で確実に対応できるようにしておくことの重要性を再認識しました。

5. 担当試合

【1 回戦】

日時：2026 年 7 月 25 日（土）12：30 kickoff

会場：広野町サッカー場（人工芝）

対戦：私立大分高等学校 - 立正大学淞南高等学校

割当：主審 小林顯太 / 副審 酒井星南氏・鳥山瑛大氏 / 第 4 審 アシニアディコ氏
インストラクター 高橋寿氏

【振り返り】

<試合に向けた準備と審判チームの連携>

2026-27 年のサッカー競技規則が初めて適用される試合であったため、適用ミスを防ぐことを審判団の 4 人で確認して試合に臨みました。今回は他地域の審判員と初めて組む審判チームでしたが、事前の打ち合わせや試合中のアイコンタクトを通じて信頼関係を築くことに努めました。結果として、競技のフィールドにいる第 3 のチームとしてしっかりとチームワークを発揮できたと考えています。ベンチ前のタッチジャッジでは、副審 1 の酒井氏のサポートにより正しい判定に繋げることができました。これらの連携により、本大会のテーマを達成できたと感じています。

<主審として得られた成果>

過去の試合で課題となっていた相手競技者を押さえる反則（ホールディング）について、本試合においては判定のブレを少なくし、概ね一貫した基準で判定することができました。インストラクターの高橋氏からも手を用いる反則の判定基準について一定の評価をいただきました。さらに、動きとポジショニングに関しても事前研修の内容を活かし、予測と動き出しのタイミングを意識しました。ロングボールの応酬となる展開の中でも、予測とスプリントを活用し、争点に対して適切な距離と角度から見極めることができたと考えております。

<本試合での課題>

一方で、インストラクターの高橋氏からのご指摘により、明確な課題も確認することができました。1 点目は、タッチライン付近で競技者が負傷した際、対応に時間をかけすぎてしまった点です。今回の競技規則改正の目的を踏まえると、メディカルスタッフを競技のフィールドに入れるべきかどうか、あるいは競技者が自力でフィールドを離れることができるのかを、素早く判断する必要性がありました。また、競技者を注意する際の笛の強さや吹き方といったマネジメントの面についても、課題点として指摘していただきました。



出典：<https://inhigh.tv/sportsbull.jp/summer/archive/1175>

【2 回戦】

日時：2026 年 7 月 26 日（日）9：30 kickoff

会場：J ヴィレッジ P5（ローン）

対戦：成立学園高等学校 — 熊本県立大津高等学校

割当：主審 稲田智成氏 / 副審 松本隼翔氏・今井悠斗氏 / 第 4 審 小林顯太

インストラクター 酒井昭宏氏

【振り返り】

第 4 の審判員として、競技規則改正に伴う適用ミスを防ぐことと、適切なベンチ対応を意識して試合に臨みました。非常に白熱した試合展開となりましたが、審判団と連携・協力することで、適切にベンチをコントロールできたと考えております。インストラクターの酒井氏からも、ベンチへの目配りや気配りについて評価していただきました。

6. 最後に

今大会は、自身にとって 3 回目の全国大会派遣となりました。初めて全国の舞台で主審を務めるということで緊張もありましたが、これまでの経験を活かし、一貫した判定基準や動きとポジショニングなど、日々の取り組みの成果を発揮できたことは、今後の審判活動において大きな自信となりました。また、主審および第 4 の審判員を担当する中で、競技規則改正への対応やベンチコントロールなど、初めて組む他地域の審判員ともしっかりと連携し、円滑な試合運営に貢献できた手ごたえを感じる一方で、負傷者への迅速な対応やマネジメント面など、次に向けて取り組むべき課題も明確になりました。

さらに、試合会場や宿舎では他地域の審判員と交流することができ、レフェリングに関する情報共有などを通じて、良い刺激を受けるとともに、多くの気づきを得ることができました。今大会で得た学びを日々のレフェリングに活かし、関西・兵庫県のサッカーに少しでも還元できるよう、これからも努力し続けてまいります。

最後になりますが、このような大会に推薦していただきました兵庫県サッカー協会および兵庫県高体連の皆様、日頃よりお世話になっております北播磨サッカー協会の皆様、そして大会を円滑に運営していただきました福島県サッカー協会、全国高体連をはじめとするすべての大会関係者の皆様に、心より感謝申し上げます。